

平成 21 年 6 月 22 日現在

研究種目：若手研究（B）

研究期間：2006～2008

課題番号：18730550

研究課題名（和文） 伝統的治療を可能にする古典学習教材の開発

研究課題名（英文） Development of medical classics teaching material  
that enables traditional treatment

研究代表者

齊藤宗則（SAITO MUNENORI）

明治国際医療大学・鍼灸学部・助教

研究者番号：90399080

研究成果の概要：鍼灸などの東洋医学は現代医学的な視点だけでなく、伝統的な考え方に基づく診療を行ってこそ、その真価が発揮される。伝統的な治療を行うためには医学古典教育が必須であり、多くの教員や学生の現状と要望に即した古典教材を開発した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2006 年度	500,000	0	500,000
2007 年度	700,000	0	700,000
2008 年度	100,000	30,000	130,000
総計	1300,000	30,000	1330,000

研究分野：社会科学

科研費の分科・細目：教育学・教科教育学

キーワード：東洋医学、鍼灸、古典、教材、黄帝内経、教育、アンケート

## 1. 研究開始当初の背景

現在の日本は少子高齢化という重大な危機に直面している。社会の急激な高齢化は医療費の増大をもたらし国家財政を大きく圧迫しているため、医療費の削減が大きな課題となっている。

一方、日本の医療体制は現代西洋医学を中心として成り立っているが、近年クオリティ・オブ・ライフ（生活の質）を向上させ、病気の予防や慢性的な腰痛や癌など従来の西洋医学では治療が困難である病気や症状を緩解させることに重点が置かれている「代替医療」が注目されるようになった。

特に日本では漢方薬やはり（鍼）・きゅう（灸）などの東洋医学が主要な代替医療として扱われている。現在の東洋医学は約 2000 年前に出版された『黄帝内経』という医学古典が理論の基本となっている。この書物にある

「未病を治す」という考え方は現在の予防医学に相当し、「未病」の概念を端的に示す「病気になる前の状態(病気でない半健康状態)」といえる。この「未病」のときに治療を行うことで病気になる人を減らすということは、国家財政だけでなく国民全体の健康に対しても大きな利益となる。「未病」に対する取り組みは 2000 年前から実践されており、それらの要点や方法などは医学古典に集約され、現在まで伝わっている。つまり、医学古典の内容は現在にも有益なものが多い。

古くから「未病」の概念を持つ東洋医学における鍼(はり)・灸(きゅう)の教育は、残念ながら現在では西洋医学に基づくものが主流を占めている。ただ「未病」をはじめとする東洋医学の長所は、その伝統的な考え方を身につけることによって初めて東洋医学独特の診察や治療を可能にし、その真価を発揮さ

せることができる。本来の特長を生かした東洋医学独特の診察や治療は、国民の健康増進に大きく貢献できる。この伝統的な考え方というものは、医学古典を学習することで身につけることができる。しかし、現行の鍼師・灸師を養成する教育機関（大学、短期大学、専門学校）では、東洋医学全般に関する簡便な教材しかなく、基礎を学ぶのみで、古典を学んで伝統的な考え方を身につけるまで至らないのが現状である。

他方、2007 度以降、大学等の志願者と入学者が一致する、いわゆる「大学全入時代」を迎えようとしており、創意工夫による質の高い教育プログラムの提供等が課題となる。医学古典を学ぶには文法や辞書、文化的背景など広範な知識が要求されるが、学生の漢文学習経験の有無や一般的な国語力の差が大きく、教育に大きな障害となっている。このため、学生の学習経験に左右されず、限られた時間の中で効率的に医学古典を学ぶことができる教材が必要不可欠であり、卒業後も膨大な医学古典を自力で学べる力を養うことが重要である。伝統的な考え方を身につけた鍼師・灸師は、国民の健康に大いに貢献でき、財政的な負担を減らす一助となる。

## 2. 研究の目的

教材を開発する際に、単に申請者の理想とするものを掲載するのではなく、鍼師・灸師全体のことを考慮し、また今後の東洋医学の発展に寄与できるものを目指すため、アンケート方式を用いて日本の各教育機関における医学古典教育の現状や問題点、および医学古典教育に対する要望などを調査する。これらをふまえた上で、現時点での日本の教育状況に適するもの、また学習者の自己学習能力を育成し、学術的発展への貢献を促す構成を検討する。そして、入門書という位置づけではあるが、中国における最新の学説や研究動向等を盛り込むことで向学心を刺激し、かつ対象者の幅を広げ、多くの東洋医学従事者の役に立つ教材を完成させる。

## 3. 研究の方法

(1) 2006 年 4 月の時点で開学している鍼灸の教育機関（全国 74 校）に在籍する東洋医学概論あるいは古典科目担当者を対象とした。アンケート内容は、①古典に対する興味の有無、②古典教育の鍼灸師に対する必要性、およびその理由、③初学者を対象とした場合の望ましい教材、④古典を原文を含めて教えているか、およびその科目名、⑤古典専門の科目の有無など 6 項目とした。以上のアンケート調査を記名式の郵送法で行った。

(2) 2006 年 4 月の時点で開学している鍼灸の教育機関（全国 79 校）に在籍する全学生を

対象に、アンケート調査を無記名式の郵送法で行った。

(3) 北京中医薬大学（100 校の重点校の内、伝統医学分野では唯一の重点校）にて関係科目（『中医哲学基礎』『黄帝内経』など）の主任教授に教育の重点、問題点、改善点などの聞き取り調査を行い、教材作成の参考にする。同時に最新の学術動向を調査し、教材に反映できるものを検討する。

(4) 教材に対する全国の要望、つまり図解や現代語訳を入れてわかりやすく、親しみやすいものに対応し、また系統的で臨床応用可能なものにした。内容は基礎知識（文法、工具書、天文学など）、中国古代哲学、古典（黄帝内経）を柱とした。見開き B4 で完結し、右ページには書き下し、現代語訳、基本&解説、図解を、左ページには原文、注釈、発展&応用、コラムを基本的な構成とした。工夫した主な点：1. 見やすく、読みやすいレイアウトで親しみやすさを重視 2. 多くの漢字にふりがなを付け、読みやすさを向上 3. 原文の内容のポイントを基本&解説で平易に提示 4. 図解で視覚的な理解を促進 5. 発展&応用で向上意欲を刺激。ソフトは Adobe Creative Suite 3 Design Premium を使用した。

## 4. 研究成果

(1) 教員に対するアンケート調査の回収率は 75.7%であった。古典教育に興味があるのは 96.4%、古典教育が必要と回答したのは 94.6%であった。必要な理由は、鍼灸医学の理解に必要（88.7%）、臨床に応用できる（67.9%）、鍼灸医学の発展に必要（47.2%）が上位であった。不必要な理由は、教育方針と合わない、教える時間がない、教える教員がない、難解であるが 33.3%であった。

ほぼすべての担当者が古典教育に対する興味があり、教育に必要なとの認識も非常に高かった。そして、さまざまな考え方や治療方法を現代に応用し、臨機応変に取捨選択・創意工夫できる教育が必要とされている。望ましい教材は「漢字が苦手」といった学生の状況を反映してか、「わかりやすい」「親しみやすい」が多く、図解や絵が必要という意見が複数あった。「古典を正確に読むための方法」を教えるべきだという意見も複数あったが、「文法重視」は 7.5%と低かった。（下図）以上より、鍼灸医学の理解と発展のために古典教育が必要とされており、現在の学生の状況に適した教材が求められていることがわかった。

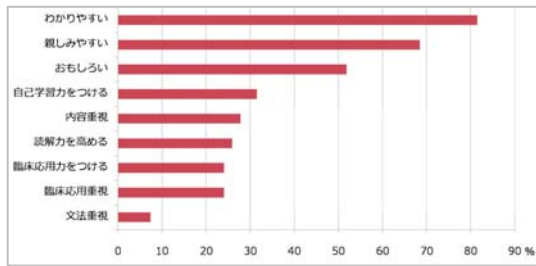
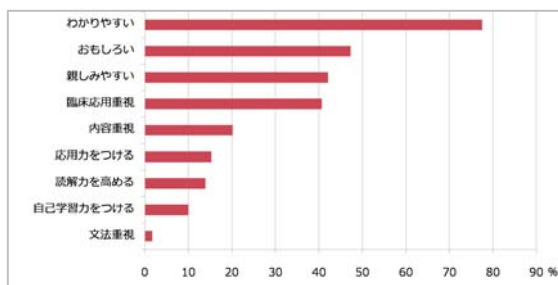


図1 教材に対する教員の要望

(2) 回収率は学校ベースで 63.3%(50 校)で、有効回答率は 99.98%(6588 名)であった。古典に興味があるのは 76.9%、古典教育が必要と回答したのは 84.7%であり、その理由は鍼灸医学の理解に必要 (67.7%) が最も多かった。入学前の漢文学習経験は 73.6%、学校での古典の学習経験は 69.4%であった。望ましい教材はわかりやすい(77.5%)もの、期待することは治療方法(60.2%)が高かった。(下図)

図2 教材に対する学生の要望



多くの学生が古典に興味があり、鍼灸医学を理解して臨床に応用するために教育上必要との認識が高かった。学生の多くは漢文の学習経験があり、学校でも触れた者が多いが、難しいという印象を強く持っている。このため、図解や現代語訳を入れてわかりやすく、親しみやすいもので、また系統的で臨床応用可能なものが求められている。第一報の教員のアンケートと比較しても全体的な印象や要望はほぼ一致しており、これらをふまえた「伝統的治療を可能にする古典教材」が必要とされていることがわかった。

(3) 中国の国家教材の制作者に対し、教材作成の最も重要な点、作成した教材の特徴、学生の理解を促す工夫、古典教材を作成する際の注意点、最近の学術的動態などについて聴取した。

①王洪図教授 (『内経学』)：教材を作成する際に重要な点は科学的であることで、厳格な選択基準が必要である。次は読みやすく、興味を持って読めるように配慮することであ

る。古典教材は原意を尊重し、いかに現在に応用できるかを提示すべきである。

②張其成教授 (『中医哲学基礎』)：教材を作成する際に重要な点はテーマとなる思想をいかに表現し、中国哲学と中医哲学の思惟方法を説明し、他の教材との重複を避けるかである。古典の教材を作る際、著作や文章の選択、その解釈、評論について注意するべきである。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計5件)

- ① 斉藤宗則、シンポジウム「古典はどのように読まれているか」「医学古典教育に関するアンケート」、第36回日本伝統鍼灸学会学術大会、2008年10月、タワーホール船堀
- ② 斉藤宗則、シンポジウム「鍼灸の古典を読む(入門編)」「医学古典を習っていますか?」、第57回全日本鍼灸学会学術大会、2008年5月、国立京都国際会館
- ③ 斉藤宗則、医学古典教育に関するアンケート調査(第2報)、第57回全日本鍼灸学会学術大会、2008年5月、国立京都国際会館
- ④ 斉藤宗則、日本の鍼灸学校における医学古典教育の現状と展望、世界鍼灸連合会成立20周年記念世界鍼灸学術大会、2007年10月、中国・北京
- ⑤ 斉藤宗則、医学古典教育に関するアンケート調査(第1報)、第56回全日本鍼灸学会学術大会、2007年6月、倉敷市芸文館

〔図書〕(計1件)

- ① 斉藤宗則、『東洋医学古典入門-基礎編-』(仮)(予定)

## 6. 研究組織

(1) 研究代表者

斉藤宗則 (SAITO MUNENORI)

明治国際医療大学・鍼灸学部・助教

研究者番号：90399080